蕉門俳諧傳書

下

へ 5
4421
3

門へ5
4421
巻 3

昭和九年
九月二九日
購求

芭蕉流俳諧傳書 巻下

[illegible]

○わたくしあらず自の事
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

○其一　情[illegible]
[illegible]
七夕やたんゝ[illegible]人[illegible]
上の[illegible]

和の通ぜざるゆゑにして学人
いうてたんとを面をかへ学修道修の
たゝしい平あらしむ

○其二　理屈のみの
たゝかひ論議のおろそかに修行
学問をいとはんより極まる
をもて特より学問をもつぱら
たゝせんとするのみ理屈と
理屈とつゝまれて学問思考妨げ
良友とたゝへし

○其三　学問のみの
精出せとおしへの水車
隙ぜに形ばかり貧乏の格式
足たりぬるを学問とし
学者をたゝへ古人曰所の
ものをたゝへ学問のみの自
修のみをたゝへ学問の自修
のみをたゝへ学問をもて
知ることわすれまゝ

夕学問本末をもて色入江
をもおもふ学問
精神を本の学問に入江を所

[illegible]り事情[illegible]て積
れ三[illegible]揚げ所の[illegible]ひを[illegible]て
いうも山[illegible]の[illegible]の事情
[illegible]

○其四　[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]の白い
[illegible]十二文字[illegible]を
[illegible]
[illegible]
[illegible]と出て帰
[illegible]

[illegible]わきまへ[illegible]
[illegible]時[illegible]の孫[illegible]
[illegible]の白[illegible]
[illegible]
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

○四時の景

春景　堅水
夏景　[illegible]
秋景　嵐雪
冬景　[illegible]
[illegible]　職士
[illegible]　[illegible]

[illegible]

○四季の花

春　[illegible]
夏　虎角
秋　牧眉
冬　尚丸
[illegible]　北枝
[illegible]　湖去

○四季の月

春　[illegible]
夏　許六
秋　[illegible]
冬　[illegible]

市中いとの〜自しかや立秋月　凡北
盆のうち雨降ぬうとつゝ　雪坡
月なく雨もしらぬ秋の月　雅方
行秋や二日くわうの月色　雪角
名月や池をめぐりて夜もすがら　菊
いなよしい絵ゝ写れる　〃
鶉なき〜しかや乃ちの月　洋
此夜や頭のさまを月　其角

四時の句月風雨

なれば笠でいふ夜の方をよく聞きま
しら附いとのよりとゝろ有し

○其五　尚年さのけあを世未孫のる
ゆるやや野ゝいろいろの色あり
なるとけりなるとゝ柳うめ
世間の尚年ようけ行せふいせんなき
東方こる年に行ふとわるの色
ゝ〜こ年ゝもめるむ色明暗を
へしこうけいこの年ゝ移ゝ〜ゝ
尚年ゝ〜ゝけ行せたるといこ年や
おようふえたいけしゝとくおのつうるる
尚年のかけ空せいゝるゝ多ふ陸へ
○其六　彩の文にるる表孫のる

手打ちて宮殿の屋根を
葺きたる板の高い板を敷く
上のまもりのおのつくりたる葉八一分
の結びるつくりあるどのかと
いふこれに沢を敷くといふこの年
たつたるせんこうあるうくなる
和名抄に書このことをふけれと
ちらくいそこと葺くふるきこの田を
いつくも一そのおくもきくふるなる
面一紙結ちつふ十七云ふのふる
にたつこてい一分のことなれるの

そうしこのつふのやいてたる
先人の稽物をとるのあるの
ます

芳列のほうをいと見ない年張で
これのの書をつくふ芳度元紙年
うるむ雲之四月年つて用ん紙く
ふるふ人

○其七 ふるのうの
そ紙紙扇年ほふ如来
おきまとて都年あ書芳度来
かの一の彩白いうやにいく叶ともも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○其八　白[illegible]

小刀[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

清[illegible]

[illegible]

山[illegible]

[illegible]

古人曰[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家居をしてこれをみる　第

和州の菴をいとなんで

唯古郷の庵から西の山と比して

そなたの庭もたのもしさせぬ

しこのくにはたのもしきもの

[illegible]

「[illegible]

[illegible]

「[illegible]

[illegible]

如歌にもこれる歌はあり　とて

[illegible]

○其九　古るに[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和のごとくなりしかやうなる
ことをなすべきなり人の形迹とかくなすことの
はなはだしきかやうなることかなかの
なるべし和のごとく車をもつくりたるもの
なりそれをもちひたるゆゑにかくのごとくなるべし
の其十　能をもつくるもの
風俗はなはだしきものなり諸のあり
事をなすべきなり人はいかなるものといふ
はなはだしきものなりそれをもつくるものとなす
べしすべてなるべし

能をつくるものはつくれ
ばなるべしもしまたはなはだしきものなり
これをもつくるべきなり
○其十一　二能三能
ちいさきはなはだしきものは孫や曾孫
角孫といふ能はなはだしきものと號
はなはだしきものは一年入るべし
一能をもつくるべきなり
義入るべし
能をもつくるべきものの能
同じくもつくるべきものの事を面白くもつくる

人に二絃三絃を及てみるのは
うまくふるのは何者世間を
見てと五をもつて通ります
一絃にすぎれたんうまの調を
以て三絃四絃五絃の
○其十二　見たのは
曲物や浄瑠璃や浄瑠璃
こうるものは始めの
事はなしたるとて用ひて
なりたんやうに使ふ用る

ちたの十編に二度実のるとく
書ひ〳〵たれと又実ふ為て
事は始めこの世はよりも劣て
分別のふるる劣へて者ん
書ひ〳〵ひ〳〵ひ〳〵ひ〳〵
何う世間のおく〳〵いそ〳〵るもの
実の者に使ひいそんと言葉
○其十四　自他のるの
和そうな世間はう〳〵綱代
事毎に重そはたるこの業稽
弱代世ひ〳〵業ひ〳〵代より人たる

[illegible]十二字自[illegible]一句その
[illegible]川風和とあるとのいふべし
[illegible]の[illegible]の[illegible]の
[illegible]の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

五[illegible]

○其十六　[illegible]人に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治廿五年旬後十六年　三年
其年孫孫の為稱賛の世代乃ち
後の時なり
不肖ながら当家を継ぎ　郎子　金一
いきの金一の為に育人の方々に
そ形紙の写に為す　豊子　園女
その女の時なりて婦人の方々に
毎年月日に新聞に報道し　義強
七月廿日に時なりて　もろもろの方々に
位なる成る人へ
初年の小さて　報毎の報と

学へ時の時なり　この為に
孫人へいたり　強なりて
嘆きへ年月の為に報道の罪なる
ものとうちかたり　義強
義を成す事を阿弥陀仏と云ふ　宇武
阿弥陀仏と云ふ　主故の白と面白と云ふ
の日唯一の和歌　以て氏院の
為ふ為の為　氏院の
時代とうちたん味て
のなりへ　わたくしたる
明治年　六月　廿日　世代　丶

又

神祭の赤うちまもる　宇民

うすの雲風つよし

春の日和歌とうたはれ雲雀鳴く

辞世とて神祭の日の浄衣の下に

雲の社と詠みこめ世のうき

白きうすもの

宮殿法師四十五年のうちの

雅の道にうたひ白拍子

うたひ　うたひ自然の中きまこと

うたひ　白川の花出る雲雀

自然のうたひ人情のうたひ　宇民

うたひ　うたひ　うたひ　うたひ

月みて　接ぬ　けけ　ちる

ものもとに　ちるもて　わかれより

うたひ　うたひ　うたひ　うたひ

うたひ　うたひ　うたひ　うたひ

自然と現実のうたひ

一葉の落ちまつ　ふかき

うたひ　うたひ　うたひ　うたひ

祖義の白詩歌　芭蕉四門の下に白雪

[illegible]
又四月晦日[illegible]
[illegible]
又[illegible]
又[illegible]
[illegible]
又和歌の伝授[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

和歌の世[illegible]
[illegible]
[illegible]
書[illegible]
伝授[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いはゆる五道の中なるものをと
とゝのへ平い理を成ずるなり
そのをあらはしていはんとする用へ
平理成平等入なり
つ句をのるの
れ所の所屋所ゝ
表示の腦い屋もほねし
名月本所といを通し紙を等
平なるもよりとるれている
所屋屋屋てこの志所をれを所ず
伝ををふをくして雑法が矣已

思ふ二句は月みれさ白いとはるり
をををもの知をもりまれ
句能句句をし
ふ所ふあをし陸句のをく一句れ
をの月風二句の句れ風を屋
ををし
屋ををて猫ふはる
屋をををを屋屋の句能
屋をををををしを
屋をををを行猪ををを同絶
屋をををを猫ふはるを

又

[illegible]

又

[illegible]

一歩[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]世の果いたり
[illegible]
[illegible]
[illegible]
平[illegible]
[illegible]
今は江戸俳諧[illegible]
角[illegible]
[illegible]

又

△俳諧俗談平話又[illegible]水平

[illegible]
[illegible]
[illegible]

△

俗談[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

上[illegible]

[illegible]

情意やさ[illegible]

○[illegible]

的場のそ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

是三卷之書ハ祖翁之遺語去来便之遺書先師之夜話ヲアケテ是ニ祖翁及古哲ノ證句ヲ撰テ一流ノヲシヘトス他見ヲハカルヘシ此旨ヲソムキタルニオイテハ禽獸タルヘキモノナリ

芭蕉流俳諧傳書巻之下 終

芭蕉流俳諧傳書自筆

△十五の弐乃巻

[illegible]

△治定の形

[illegible]

△祢宜の形

蓮華の中にて中にて落ちて
いうも称ちへ
△嘆息の花
牛ちうちの中に略ちつ少へ花
いうもたんにへ
△願の花
黄ちく白ちく赤ちくちかの色もなくも花
ちれちやすく耳もうる部屋
たちてるかたらふとて
ちちちにたく
赤ちちかちの花件に月後の月

うれちうもうちちひとちちる花
ちちあちへ又ふ華もちちなると
ちれれちしの花
△竹もと花
うちれれあちちる稲乃秋
うにはちふ花よく法華に法
△ちちむ花
ちちの中の月のやちちちち花
ちしちちへ
△うち花
月ちに月いはもちちの花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

△[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時雨降る年くれぬる花の枝
小倉山はるまに初くる梅の道
時雨降る小倉山はるくゆくはるかなる
こゝ上方文字ヲ[illegible]
はるてはるとなるなり
[illegible]
[illegible]ものはるへる梅の[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
歎息ル 祈願の[illegible]
[illegible]

△ 梅折ル

[illegible]
[illegible]
[illegible]
梅のて このこの
[illegible]
[illegible]

吟じて幻うへし
南天の実第さかりて時雨の後
青葉〳〵の間と和うへとおもふ
む一本の木のまばらにまばらの中
かるのこゝろにたゝりて吟 あとゝかわれ
そのいきとふかもたんとその時らかはし
とにたゞ世のつまの秋い
世の物かなんとの和歌とはたゝうす
ふしのてとそうはたくの白らかるの長
△歌をてのか
なんの五て暴風の所との時結果

角たゝをて廿三日のうきまぬき
かくのこゝろ上よ 物の角 たゝ我いく
いつまでいうにいつてなると
こうこうにおつて八月九日の吟しと
たゝへ

物語の卯月の月

なまといつてのかたとつるうけてさて
かとなるたゝく吟して幻へ
なんの本ものもとたゝれと行う
何とそれてもの長もたゝれと行う
うれて角たゝる○時時蓋と別なるの吟

△十五のやうなる
[illegible]のやうなる
[illegible]のうしろ数の
[illegible]のやうなるあなし乃ちや
[illegible]やうなること
△治定のやう
[illegible]のうへ乃ちのかけ
[illegible]やうなるやうなること
△[illegible]のやう
[illegible]大なるの和りなる

△[illegible]乃ちや
[illegible]やうなる
△[illegible]やう
[illegible]の[illegible]眼[illegible]やう
[illegible]のやうなる上[illegible]なる
[illegible]上[illegible]
[illegible]の[illegible]やう
[illegible]
[illegible]

[illegible]

△下知乃や

[illegible]

△たゝこや

[illegible]

[illegible]

[illegible]

△[illegible]

[illegible]

[illegible]

口をのやかてまるもあきぶ秋と
此句の一体乃注ハ句ゆへ
うゝいのや　口をのやよく似る
猫のふし句ハ此して列まへ
△うゝいのいのや
人や来ハ柳こるる月の窓
此してまるへ
あやなるこるこ　あやるるのたくひなる
うゝ数のや二やなりこれる色い
ろろかるきたらしい
まやたんん　扇やうゝまへ

天や来ハ　なるのたくひ句篇
うゝのしゝ
△柳ハまるる
まるれやるてるる山の蔦
△そさうや
孫ありて見やる浮世の煙
此して列へ
やまんるるやと似て猫のふし
△小うや
星霧の雲ぬんと　鳴千鳥
を問のけ多ふとふ此して列へ

△穂乃や

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十五のや 清句のなかてあるなり

○又

やとりて 物[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆくとしてゐるをそこなへ秋の人道
何しそこなはゞ　おそこなひ
それとてゆるせ　たといふほと
ユケセテ子ヘメレとほとくし
これホ彼方のあをむきてゐるへし
こそそう　こそそう　ゆるあと　ゆるの保れ
うこうこうとゐるへし
ちきいこそ何遍をまきの窓の方
ふれいこそ何はれたきるのと何遍の
そうるあこんふ遍しを
久うのひうの乃とけうきまのうそ

ちりつるくものあうへ
ゆうておのちこいんといこのこをふを
こんあひしをさを保ちんたう
五合帰平はを何ふいこの自
これいいをつこそすこそ切る
平せしこそ遍のをふまの何ふ
あれんをの日初平葬ふ子たうそ
石女乃解ひはこそ何を秋すう
かくはくくそこそ　こそ遍
たといの馬平保のうこそし
ひきを遍ふのうをあをふ

[illegible]

八月十日

△なをその事

[illegible]

[illegible]

又

[illegible]

[illegible]

[illegible]

こゝのかの白帆の白帆く
あをやぎの柳のやせん柳のやせん
天雲にたゞよふ雲のうん雲のうん雲たけ
柳の糸や春いとゝ乱れ雨のうち
鶯なきぬるゝに鶯やかるゝん
こゝろのたゝかひをこゝろ
こゝろ海和てゆゝ
春の雲いとゝ自化のわうち
現実の三方ぶたゝまりて白あをを
見つゝ